

絆

きずな

伊達市災害ボランティアセンター通信

第1号
平成23年4月



社会福祉法人

伊達市社会福祉協議会

伊達市保原町字宮下111-2

Tel 024-576-4050 fax 024-574-3525

E-Mail honsyo@dateshisyakyou.org

このたびの『東日本大震災』により、被害を受けられた皆様に心よりお見舞い申し上げます。本会としましても、今後の安全・安心な市民生活づくりに向け共に尽力させていただきます。

伊達市災害ボランティアセンター スタート！



避難所の子供達と、中学生「遊び相手ボランティア」(梁川体育館)

3月17日『災害ボランティアセンター』を伊達市社会福祉協議会本所に設置しました。

11日の震災から1週間、伊達市と被害状況を把握・共有し、準備体制を整えた上での立ち上げでした。発生当初、市内では一部を除き大きな建物崩壊や死亡者がなかったこと、ライフライン（電気・水道・ガス）が1週間程度で全域復旧できたという幸運も影響しました。また翌日から相双地域の避難者が約1,700人移動され、8ヶ所の避難所が設置されました。これらの経緯から、ボランティアセンターとして次のことをもって取り組みました。

- ① 災害直後のライフライン復旧時 → 要援護者の安否確認・事業所の早期再開
- ② ライフライン復旧後の生活支援 → 市民ニーズと相双避難所ニーズへの対応

3月後半の燃料不足・物流遅延、4月いまだ見えない原発問題の収束や風評被害の影響と、福島県全体としても試練が続く毎日ですが、一步一步前進していきたいと思えます。

登録者 877 名！こんな活動をサポートします

現在ボランティア登録者は877名に上りました。特に3月多かったのは学生ボランティア（中学生・高校生・大学生）、仕事が自宅待機という20代～30代の会社員、整体師や看護師などの資格をもつ方が続々と窓口を訪れました。日赤奉仕団役員を始め、避難所が近くにあると聞いて手を挙げてきたという実年齢の方々も増えていきました。センター（各支所）に届く「自分のできることで役立ちたい」「困っている方々に何かしてあげたい」という多くの『熱い声』を受け止め、『登録者1回以上の活動』をモットーにつないできました。

ボランティア活動 の流れ

活動者（本人）

- 窓口で直接登録します
（同時に保険加入されます）
- 登録証をさしあげます
（ネームプレートは手元に）
- 活動報告を事務局へ
（内容を記録し提出します）



登録証（ネームプレート）

ニーズ票 （避難所・地元）

- ボランティアの依頼
（適正な内容か確認します）
- 活動先の安全確認
（依頼責任者・リーダーへ）
- 依頼先へ事前報告
（派遣される人・時間連絡）

社協 （コーディネーター）

☎ マッチング
（事前打合せ）

活動

次回のボランティアへ

<ニーズ票>

ボランティアニーズ調査票

= 伊達市・社会福祉協議会ボランティアセンター =

伊達市社会福祉協議会 TEL:024-576-4050 FAX:574-3525

支所 TEL: - FAX: - 受付 月 日
報告 月 日

被災者・被災施設・災害対策本部（避難所・救援物資の仕分け等）等からのボランティアの依頼・要望について、訪問し調査する。

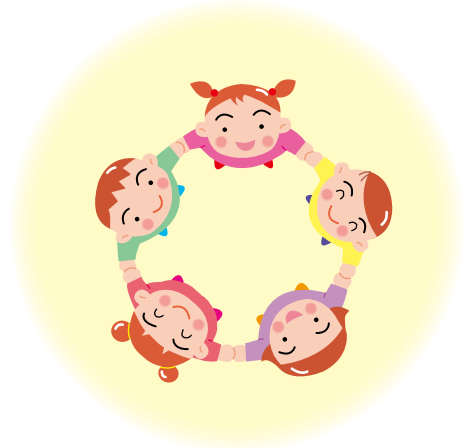
（ふりがな） 派遣先名 訪問先氏名	
訪問先住所 電話番号 （TEL）	
訪問日時 月 日（ ） 午前・午後 時	
訪問先の概要 ・被害状況 ・依頼・要望内容 ・必要な支援	
ボランティア 派遣の希望	希望する・希望しない 希望人数 男 名・女 名
調査担当者 氏名	
事務局使用欄	
依頼・要望内容について、ボランティア活動部隊の災害対策本部での安全性の確認 確認日時 月 日 時 確認者氏名	

<ボランティア申し合せ事項>

ボランティアをするうえ？…

- 無理はしない
- 「やらせていただく気持ち」でやることが、善意のおしつけ
- ボランティア活動は広範囲です
今の作業だけでなくコミュニケーションも大切に
- 帰る時は必ず声をかけてください⇒報告書の記入
- ボランティア同志…せいかくの縁です お互いに
- 担当職員の指示をおおいってください
- 次のボランティアにつづくボランティアと!!

伊達市災害ボランティアセンター
TEL:024-576-4050



広がるボランティア / 活動状況

相双避難所（伊達 2・梁川 2・保原 2・霊山 2）

3月後半 避難所は自治会づくりが進められ、行政・社協職員と避難所のリーダーとの連絡・連携を密にし、ニーズ把握を行いました。さらに食事・入浴提供は統一したかわりで行われました。

- 保原日赤奉仕団による避難所主食の「炊き出しボランティア」（保原市民センター：延 66 名）



- 春休みのお兄さんお姉さん、同世代「遊び相手ボランティア」（伊達体育館：延 80 名・梁川高校：延 50 名）



- 避難所にこもりがちの皆さんへ「元気とりもどし隊」が昔話や紙芝居を行いました（梁川上町会館：延 10 名）



- 行政総合支所では「救援物資仕分けボランティア」が大活躍（保原本庁シルクホール：延 80 名）



高齢者施設

- 避難者がいる施設へ
高齢者の見守り「傾聴ボランティア」
(伊達ケアセンター和らぎ：延 150 名)



避難所物資

- 避難所にすぐに役立つ物資はお預かりし、
調理のために役立てました



喜多方市社会福祉協議会より
ペットボトルの水 2400 本

保原町
舟山醸造より
みそとしょうゆ
20 本



避難所児童のみなさん 旅立ちの式



3/30だて青年会議所の主催により伊達ふるさと会館において開催されました。

7名の児童と家族らを囲み、聖光学院の野球部・バレーボール部の生徒がボランティアとして運営をお手伝いし、大いに盛り上げました。



東日本大震災義援金を 受けつけています

- **受付期間**
平成23年9月30日（金）まで
 - **受付方法**
 - ・郵便振替
□座番号 00140-8-507
加入者名 日本赤十字社
東北関東大震災義援金
 - ・銀行振込
東邦銀行 南福島支店 普通預金
□座番号 612668
□座名義 日本赤十字社福島県支部
- ※伊達市社会福祉協議会本所・各支所の窓口でも受付をしております。

～つなごう手と手～ 編集後記

3.11-東日本大震災から1ヶ月、福島県では原発問題や風評被害を伴い大きな傷跡を残しました。

23年度まさに伊達市の防災対策として、災害ボランティアセンターの動向を検討していた最中でした。ある程度準備されていたマニュアルやシステム通りには決して進まず、新たためて伊達市なりの形づくりと同時に迅速な判断が求められました。加えて行政からの正確な情報、それら共有が大変重要でした。

特に避難所ボランティアの方々からは、「どうしてもできないの?」「もっと早く対応すべき・・・」等のご指摘やご意見も届きました。今後も皆様からの「想い」や「気づき」を真摯に受けとめつつ、組織として適切に運営してまいりますので、さらなるご理解ご支援をよろしくお願ひします。